

地域福祉計画をどう具現していくのか



瀧澤 征幸 議員

【質問】遠野市地域福祉計画が示されたが、福祉関係の各個別計画をまとめたマスタープランとしての位置付けだけでは不十分と考える。同計画は、地域福祉活動計画との連携や、市民生活への影響、市民の具体的な取り組みなどが明確なものとなっていない。

従って、計画の中で地域の福祉課題や地域の特性を十分

に捉え、実行にあたっては、メリハリを持った地域ごとの施策の展開が望まれるものであるが、市として今後、地域福祉計画をどう実のあるものとしていくのか。

【市長】この地域福祉計画は、全ての市民が、家族や地域の中で、その人らしい自立した生活ができる地域社会の形成を目指すものであり、当市の「遠野スタイルの創造」という総合計画基本理念により、市民、社会福祉関係団体、及び行政の三者の協働により、福祉コミュニティの増進を図り、福祉によるまちづくりを目指そうとするものである。

当市の地域づくりは、各町の地域づくり連絡協議会をはじめとするまちづくり団体と、地区センターを核とする行政との協働体系により培われたものである。

一般、地域福祉コミュニティの増進、高齢者・障害者等の見守り体制の整備、在宅福祉の推進、そして子育て支援策の充実など、10項目の地域課題を特定し、地域福祉計画として体系化した。この体系化した施策に実効性を持たせるため、地域福祉推進5ヵ年プログラムを策定し、当面の取り組み内容を明示させていただいた。

地域福祉課題や地域の特性に即した地域福祉計画の必要性については、全くご指摘のとおりであり、計画の運用段階において、地域福祉に有効な施策を着実に実行していきたい。そのためには、各地区センターの活動に地域福祉活動が輻輳する取り組みを進め、地域福祉推進5ヵ年プログラムの確実な進捗を図りたい。

地域づくりと市内中学校再編計画について



佐々木 譲 議員

【質問】本市の地域づくりと市内中学校再編計画の整合性をどのように考えているのか。

【市長】生徒数の減少が続く中、多くの集団の中で社会性や協調性を養うことが重要である。

【質問】再編効果による経済効果はいくらになるか。

【市長】中学校再編は支出抑制を図るためのものではない。

【質問】綾織地連協と「夢拓く綾織小学校を創る会」が了承するまでに、どれだけの会員の総意が反映されたのか。

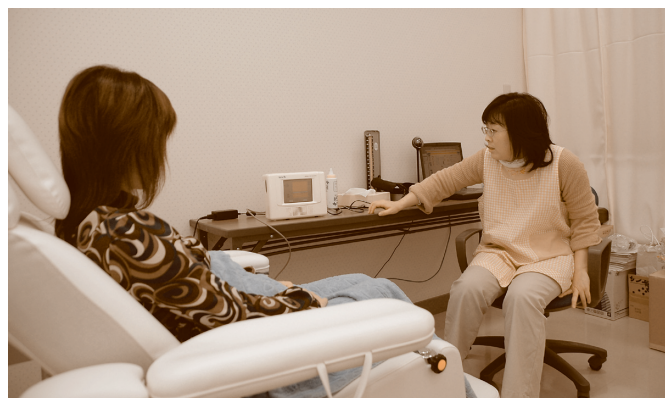
【教育長】昨年10月、市長に対し綾織地連協・区長会・小学校PTA連名による綾織小学校単独改築の要望書の提出があり、その後要望団体の代表者と会議、全体懇談会を7回開催し、毎回40名近い方々が参加した。その後、それぞれの要望団体で協議がなされたと聞いている。

【質問】綾織地連協が中学校活用の改築を了承したことは、これから進める予定の中学校再編計画と矛盾が生じるが。

【教育長】綾織地連協が「学びのプラットホーム」構想を受け入れたことは、地域が綾織中学校の中学校再編計画において閉校になることを了承したことになるとの議員の認識であるが、中学校再編が実施されるまでは、中学校の体育館と特別教室を小学校と共同利用していくことを基本に進めている。中学校再編計画の了承を地域が持ったという認識は現時点では持つものではないと考えている。

【質問】再編計画で、組み合わせによっては、基本構想の「1学年2学級以上」が実現できなくなるがどうするのか。

【教育長】検討委員会では、人数あわせではなく学区の歴史や地域を考慮して検討しており、教育委員会が学校の組み合わせを特定しているものではない。



▲妊産婦の不安解消と負担軽減を目指す助産院「ねっと・ゆりかご」